



スマイルサポートチーム

マスコットキャラクター おづみん

チーム構成

- チームリーダー
芦澤 万里子
- チーム員 9名 (H31.1月現在)

チームの目標

★保護者の「エンパワメント」

保護者を元気にして、自分の力で子育てに向き合うことができるように支援します

チームの特徴

- 地域人材
- 保護者にとって第三者
(※教員や教育委員会、福祉部局職員でない)
- 子育て世代又は子育て経験者
- 保護者や子どもに会える時間を優先した訪問ができる



チーム結成の背景

子育てやしつけに悩みや不安を抱える保護者の増加
(人間関係の希薄化・家庭が地域で孤立、相談できない)

家庭教育の重要性の認識が低い保護者や生活に追われ余裕のない保護者の増加
(来てほしい保護者は来ない・来れない)

学校(教職員)との関係が悪くなった保護者が
学校ともう一度つながるためには支援者が必要

平成17年度～

↓
第三者による訪問型家庭教育支援

①ひたすら保護者の話を聞きます！

□保護者の話すことに耳を傾け(傾聴)、保護者がしたい話をします(保護者との「意味あるムダ話」)

②「お土産」を持って保護者のもとに伺います！

□保護者がもらってうれしい「お土産」(=子どもの成長した姿、頑張っている姿)を伝えます

③信頼関係を築いて、学校などをつなぎます！

④保護者が「エンパワメント」されてきたらフェードアウトします！

チームのつながり

★サポーター会議

- ・月1回、各サポーターの取組みや悩みを共有
- ・市教委、SSW、CSW(コミュニティ・ソーシャル・ワーカー)も参加し、ともにケースを協議

★サポーター研修

- ・教員の研修に参加し、教員とともに学ぶ

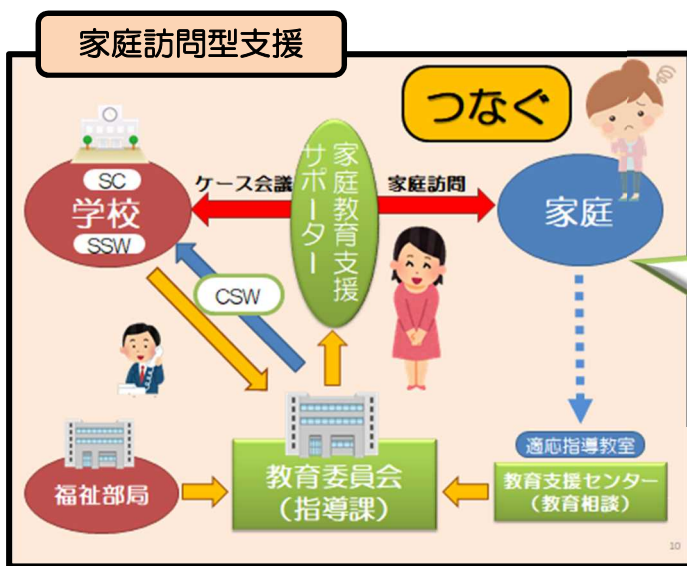


チームメンバー

CSW

SSW

市教委



- ①指導課への連絡
- ・指導課（家庭教育支援担当者）まで連絡
- ②ケース会議
- ・ケース会議にサポーターが参加
情報共有と役割分担を確認
- ③家庭訪問スタート
- ・家庭訪問のようすを学校と市教委に報告

サポーターを小学校に配置して、**教員と情報を共有しやすい環境をつくる**

★「気になる子」の共有

→不登校や問題行動の未然防止・早期対応



活動実績

<家庭訪問型支援>

平成29年度 訪問回数 101回 支援した家庭数(児童数): 13家庭(14名)
 平成30年度 訪問回数 101回※ 支援した家庭数(児童数): 11家庭(13名)

<小学校配置型支援>

平成29年度 配置回数 197回 保護者支援を行った家庭数(児童数): 5家庭(5名)
 平成30年度 配置回数 199回※ 保護者支援を行った家庭数(児童数): 9家庭(11名)

※平成30年度については、12月末現在